

市職労退職者の会

第13回退職者の会総会（1月15日）

アクロス福岡会議室にて開催

市職労退職者の会は、「緊急事態宣言」を受けて長らく活動を休止してきましたが、10月19日に役員会を開き活動再開について他団体等の状況なども参考に協議しました。

その結果、ワクチン接種が広まり、感染拡大が抑制され、緊急事態宣言も解除されたこ



号より 56
2021年10月25

とから少しずつ活動を再開していくことを確認して準備を進めることにしました。

とりわけ、昨年中止し文書報告としていた退職者の会総会を新年1月15日（土）に開

いて新年度活動方針と新役員の選出を行うことを決めました。また、例年であれば総会に続いて懇親会を開いてきましたが、今回は大人数での会食は控える必要もあり総会・役員選出と講話に止め、2時間以内で終了することにしました。皆様のご出席をよろしくお願

いします。尚、今回は規約で任期2年となっている役員の改選の年度になります。役員を引き受けていただける方を募集しています。

日時 1月15日（土） 10時受付

会場 アクロス福岡

601会議室

講話 新型コロナウイルス

と公衆衛生の危機

講話 横多文男さん

（元市政研究会事務局長）

総会

①経過報告・会計報告

②新年度活動方針（案）

③新年度会計予算

*総会終了後に持帰り弁当を配布します。

*出席されます方は、1月10日（月）までに市職労（711-4940）に連絡をお願いします。

▽今後の具体的計画

山歩き同好会

可也山（365m）

日時 11月13日（土）

集合 筑前前原駅に9時30分集合

*地下鉄博多駅で前原行の8時48分発に乗車して下さい。

*弁当持参

雨天の場合は、中止や延期

前日に電話・メールにて連絡。

*参加希望者は左記まで連絡をお願いします。

（携帯番号 092-1346-7117 横多）

若杉山（681m）

日時 12月11日（土）

集合 博多駅発篠栗行き（8時52分）

長者原乗換で須恵中央まで

西鉄バスで皿山公園下車

*弁当持参

*雨天の場合は中止又は延期

*参加を希望される方は、左記まで連絡してください。

（携帯番号 092-1346-7117 横多）

小旅クラブ（企画案）

大牟田市（近代化遺産の見学）

日時 4月初旬

若松の街歩き（直方のつづきです）

日時 5月連休明け

*詳細は日程の決まりしだい「たより」にてお知らせします。

▽バスハイクの計画は、来年8月以降の感染拡大の状況などをみながら検討します。

公衆衛生と保健・福祉行政の強化と拡充、安心できる被災者支援を

コロナ危機で崩壊寸前の医療と福祉

世界保健機関（WHO）が新型コロナウイルスのパンデミックを宣言して2年が過ぎ、世界の新型コロナウイルス感染者数は今年10月21日現在2億4000万人を超え、死者も500万人に達するなど史上かつて人類が経験したことのないスピードで感染が広がっています。

日本では昨年11月からの第3波に続いて、8月にはオリンピック・パラリンピックなど大規模イベントの開催で第4波の大規模な感染拡大を引き起こし、1年半に及ぶ緊急事態宣言の元で感染者が172万人余、死亡者が1万8000人以上に増加するなど依然として出口の見えない状況が続いています。

昨年3月の感染拡大時から言われ続けてきた保健所（公衆衛生）や医療機関等の統廃合による脆弱な体制が、PCR検査の遅れと相まって相談・調査・検査機能を麻痺させ、医療崩壊に追い込まれる事態となつて自宅待機を余儀なくされ、在宅死亡が続発するなど国民の不安もピークに達しました。

しかも、民間依存の介護施設や保育園での集団感染が次々に発生して施設職員の退職等も相次ぎ、劣悪な労働条件等から新たな雇用も困難で人員不足から休業・廃業・倒産も広

がっています。また小中学校でも感染予防のため分散登校の教育やリモート教育が行われ、生徒間での学習の遅れや格差も広がり重大な教育問題となっています。

大学では対面授業が開かれなまま1年が経過して、リモート授業では実習が伴わず資格取得も出来ずに留年、退学を余儀なくされる学生も生まれています。コロナ危機は日本の医療・福祉・教育制度について大幅な改善・改革の必要を明らかにしています。

開発の限界と地球環境の危機

国連開発計画（UNDP）は2020年版報告書で、人間の活動が地球環境にかける負荷が『人類の進歩を行き詰まらせる危険がある』と警告しています。毎年、世界各地で大規模な自然災害が多発し温暖化等による地球環境の危機が叫ばれ、CO2排出量の削減など持続可能な経済政策が求められています。

とりわけCO2の排出増加に責任のある先進国は、2030年までに脱炭素型のエネルギー政策による排出削減が求められています。地球環境の危機を回避するための時間は刻一刻と迫っています。自然との共生をスローガンに脱成長を掲げて福祉や教育・医療など人々の命と暮らしを守り、自然環境を維持・保全する政策への転換が強く求められています。

格差解消と対等平等の世界に向け

昨年のノーベル平和賞は、世界の貧困地域で食糧支援を行っているWFP（世界食糧計画）に与えられました。今年はロシア、フィリピンのジャーナリストに送られました。報道の自由が危機に瀕し、90年代以降、ロシアで58人、フィリピンでは87人の記者が殺害されているといいます。授賞はそんな厳しい政治情勢のなかで真実を伝えるジャーナリストを励まし、応援する狙いもあるのでしょう。

新自由主義の経済政策によって世界中に格差と貧困が広がり、中南米、東南アジア、中東・アフリカなどの各地で内線や紛争が広がっています。国連では来年1月から核兵器禁止条約（開発・実験・生産・保有・使用を許さず、核による威嚇も禁止する）が発効となりますが、米国の「核の傘」に入る日本政府は批准に反対しています。しかし、パンデミック後の世界は、格差解消と相互信頼に基づく対等・平等・互恵の世界へと歩み進めます。

ありがとうの感謝を込めて

今年も年末年始を自らの感染リスクと家族への不安も抱えながら、患者の命と健康を守るために使命感を持って勤務される多くの医療関係者、保健所職員、介護職場の皆さんに「ありがとう、ご苦勞様です」の感謝のメールを送ります。